

赤とんぼがら

見える未来

「赤とんぼ」。その数が、生活環境の悪化等の影響で全国的に激減しています。勝山市では、秋になるとまだたくさん赤とんぼが飛ぶ姿を見ることができませんが、国内では極めて貴重な地域とされています。勝山市では生物多様性を保全する目的から、秋に赤とんぼが舞う環境を未来へ残していくための取り組みを始めました。日本の原風景を守り、多様な生物が生息できる環境を未来に残しましょう。



アキアカネ
(平泉寺町池ヶ原湿原にて撮影)

アキアカネを追う！

市内小学生が参加

赤とんぼを代表する種であるアキアカネは、初夏に水田で羽化し、夏には高地で過ごした後、秋に真つ赤になって平地に下りてくるとされています。

6月から7月にかけて、勝山市環境保全推進コーディネーターの前園泰徳さんの指導により、赤とんぼの生態を調べるため、市内の4小学校(三室・野向・荒土・鹿谷の各小学校)の児童が水田で羽化した赤とんぼ類(アキアカ



三室小学校の調査風景

ネ、ナツアカネ、ノシメトンボ)の数を調査しました。また、翅(はね)にマークを付けて放し、その移動経路を調べる活動を行いました。(マーク総数2536個体)

アキアカネの生態

